

# 千葉共同サイロ 株式会社

- 所在地：〒261-0002 千葉市美浜区新港 16 番地
- 代表者：代表取締役社長 山根 学
- 創業・設立：1967 年 4 月 20 日
- 事業内容：サイロ事業・港湾運送事業・倉庫業・貨物利用運送業・3PL 物流事業
- URL：<http://www.kyodosilo.co.jp/>



【取材対象者】  
代表取締役社長 山根学氏

## 【関東圏内の「食の安全・安心・安定」に貢献】

千葉食品コンビナートのゲートウェイを担い続け、2017 年には創立 50 周年の節目を迎える。

小麦の取扱量は、日本最大。

地震などの災害が起きても、止まることなく供給し続けている。

### ■事業内容・CSRについて

サイロ事業、倉庫業、一大消費地である関東を中心とした食を支える日本最大のフードコンビナートにおいて、輸入の窓口となるターミナル、保管サイロを営んでいる。

取引先とは五分五分ではなく、相手には六分七分の利があるように話を進めていく。それは、一見損をするようで、長い目で見ると会社に利をもたらすと考えている。

また、事業を継続させることが企業の社会的責任と考え、東日本大震災の時には、親会社である住友商事独自の電力供給システムにより、中断することなく小麦を供給し、パンや麺の原料等、各製粉会社様の製品を守ることが出来た。その結果として、関東圏内の食品が不足することなく、私たちの生活を支える源になった。

CSR活動の一環として、積極的にインターンシップの受け入れを実施している。一般的なインターンシップの受け入れ期間よりも長く受け入れを行うことで、企業の雰囲気のみならず、穀物物流や、人材教育について学ぶことができるカリキュラムとなっており、学生より好評を得ている。

### ■社長業の喜びや意義について

千葉共同サイロの大きなテーマの1つに、人材育成を掲げている。会社の純利益が上がることも喜びではあるが、若い社員に企画構成等を任せることにより、成長する姿を見ることが出来た時は非常に嬉しい。

そして、その社員がその後家族を持ち、その家庭を千葉共同サイロが支えることができていると感じた時も喜びであり、社員との絆を感じている。

社員の家族を守るためにも、経営者としての責任を果たさないといけない。

### ■20歳の頃から現在に至るまで

20歳当時、京都大学の法学部の2年生で、将来の夢であった弁護士になるために勉強をしていたが、ゼミを選択する時に、京都大学の故こうきかまさたか高坂正堯先生（国際政治学者）と出会い、転職が訪れた。

国際政治学を通じ、世界を知ること、弁護士という夢から国際的な仕事に就くことが将来の夢となった。就職活動を開始した年は、一部の商社は新規採用を見送るほど、不況の年であったが、住友商事に入社することができた。

入社してからは、アジア圏を中心に、トータルで19年ほど海外へ駐在した。「Face to Faceで人と接すること」を心がけ、海外ではいろいろな人との出会いがあり、文化の違いから苦勞することもあったが、グローバルな仕事が出来たことを誇りに思っている。

### ■地域貢献・認知度向上に向けた取り組み

千葉と新宿のデザイナー学校の授業で、千葉共同サイロのPRポスターとキャッチコピーを作る授業を取り入れてもらった。

学生の考えを取り入れることにより、今までにない新しいアイデアが生まれる。ポスターについては、コンテストを行い、受賞したポスターを千葉みなと等の駅構内に掲示することで、多くの人に千葉共同サイロを知ってもらおうという狙いがある。

また、学生の頃からサッカーが好きであり、同社フットサルチームの監督に就任した。冠大会「チバキョウ杯フットサル大会」も創設し、近隣の企業や関係企業が参加しており、交流を深めることで、地域貢献・認知度向上に取り組んでいる。

## ■編集後記

### ◎永井 英介

山根社長のお話はどれも、これからの将来に役立つことばかりでした。特に印象に残った内容としては、東日本大震災の発生時には、親会社独自の電力にてコンベアを動かし、小麦の供給を続けました。そのため、近隣のパンや麺類の製造工場では生産を止めることはなく、事業の継続こそが、千葉共同サイロさんの社会的責任の全うであると思います。

このように社会性を持った企業を経営されている山根社長の話を聞いて、学生時代にやりたいことを見つけること、経験を積むことが大切だと思いました。これからの一日一日を大切に過ごそうと思います。ありがとうございました。

### ◎安蒜 知之

今回の山根社長へのインタビューで一番強く印象に残ったことは、とにかく若い社員からベテランの社員まで全員を、本当に大切にしているのだということです。山根社長の言葉の端々から感じました。

CSRには従業員への配慮も含まれています。まさに山根社長はそれを体現されていると感じました。

また、私たちが千葉共同サイロさんを訪問した際に、同社の事務所内にて、社員の皆様が仕事を中断して立って挨拶をしてくださり、とても温かく歓迎していただきました。お客様へのおもてなしが徹底されていると感じました。少しだけ見えた仕事風景も、活気があるように伺えました。世の中にはブラック企業が数多くあると言われる現代ですが、全く正反対だといえます。

私は来年度から徐々に就職活動が始まりますが、千葉共同サイロさん

のように、活気があり意欲的な社員が多く、山根社長のような社員一人一人を大切にするような社長がいる企業に就職したいと、訪問して以降考えるようになりました。このたびはありがとうございました。

### ◎向後 駿稀

山根社長の貴重なお話を直接伺わせていただき、ありがとうございました。

どの話題も勉強になるお話ばかりでしたが、特に印象に残っていることは、「不測の事態でもいつもと

変わらず仕事を続ける」ことです。千葉共同サイロさんが東日本大震災の時も滞りなく事業を行われていて、関東の食を支えているという責任感を持って仕事をされていることを知りました。これこそが一番のCSRだと思います。

私は、来年から就職活動が始まりますが、なかなか山根社長のように目標を見つけることができません。目標を見つけることが出来るよう、大学生活を無駄のないように過ごしていきたいと思います。ありがとうございました。



## ■敬愛大学経済学部経営学科粟屋教授より総評

千葉共同サイロ様の来客に対するホスピタリティは徹底している。必ずボードに来客名を記し、社員皆が笑顔と一礼で迎える。このたびお世話になった我がゼミ生も同様に歓待していただいた。ここに同社の哲学がある。お客様を大切にすることは、企業が従業員を大切にしなければ成し得ないことである。

当初ゼミ生は、山根社長の存在感に緊張を強いられたようであるが、従業員の成長が何よりの喜びと語られる姿に、人間としての大きさを感じ、かつ温かな企業風土を味わったようである。CSRの側面はいくつかあるが、良き日本的経営の特色として従業員への責任は忘れてはならない重要項目である。従業員が広く社会への責任を果たすのだから。

高所大所の視点を学生に教えてくださった山根社長、また快く迎えてくださった社員の皆様に感謝申し上げます。